

日野市議会議員

伊藤あゆみ

日野市政 Report
Vol.3

ITO AYUMI



発行者／伊藤あゆみ後援会 住所／日野市川辺堀之内153番地の1
電話・FAX 042-843-3359

しみを経験させたくない その思いで、今回再開されます**HPVワクチン接種を勧奨**しています。対象者の皆様には、行政からきた通知に目を通し「利益とリスク」を比較考量しご家族で話しあった上で判断してください。

日野市には、不安な事があれば個別対応で丁寧に心に寄り添った対応をお願いしました。

また現在、**三多摩にはHPVワクチン接種後の協力医療機関がありません。**

万が一、体調に変化があった場合、身近な三多摩の医療機関ですぐに受診できることはとても大切なことです。

私も市政・都政・国政と連携しながら、**三多摩地域に協力医療機関を設置**できるように取り組んでまいります。

3 健康を守り未来を歩めるまちな向かって

健康を守り未来を歩むために大切なことは、自分の体と向き合うことである。

日野市では、がん検診に対し様々な取り組みを行い受診率の向上を図っているが、**市民の声はそこに反映されているのだろうか。**

がん検診に**腫瘍マーカーを導入して欲しいという要望**があり、私も前向きに検討するべきと考えるが、日野市の見解を問う。

市担当 答弁

国立がんセンターによると、腫瘍マーカー検査は血液や尿などの体液の成分を測定して行うた

め、身体への負担がほとんどない検査であるが、癌があっても値が高くないこと、癌とは無関係に高い値になることもあるため、検査のひとつとして画像検査結果などと併せて、医師が総合判断するとされている。

この見解や国の指針に示されていないことから、市のがん検診に腫瘍マーカー検査を取り入れる事は現段階で難しい。

今後も国の動向を注視し、がん検診を推進していく考えである。

あゆみの目線

私が子宮頸がんを早期に発見できたのは、がん検診を受けていたからです。

検診は自分の体と向き合う大切な機会です。

日野市においても、様々な取組みでがん検診の受診率向上にむけ努力をしております。

ご自宅に**通知が届いた際には、ぜひ目を通していただき検診にお出かけください。**

また、腫瘍マーカーをはじめ、多くの課題を市民の皆様から頂いております。

今後も、**国や他市の情報を収集しながら、市民の皆様のニーズにあったがん検診の実現に向け、市に要望してまいります。**

*一般質問の詳しい内容は、日野市議会インターネット中継をご覧ください。
(約45分間の質疑です)

お知らせ

市民相談会を伊藤あゆみ事務所で開催いたします。
詳しい内容は、次回の政策レポートでお知らせいたします。

あゆみの活動報告



▲皆様の声を市政に届けます



▲片山さつき参議院議員と



▲信じよう! 私たちのちから



▲自民党女性局 自見はなこ参議院議員と

あゆみの幸せ奏でるメッセージ♪

日野市議会議員の伊藤あゆみです。

2月の日野市議会選挙におきまして、2120票12位の成績で皆様に市政へお送りいただき、早3ヶ月が経ちました。(公職選挙法により当選後、御礼の挨拶などは禁止されています)

この間、市政では民生文教委員会・一般会計予算特別委員会・議会運営委員会に所属、また国民健康保険運営協議会委員に就任いたしました。

令和4年度第1回定例会においては、伊藤あゆみの選挙公約に掲げておりました妊娠前からの子育て支援をはじめ、子宮頸がんワクチン接種について・がん検診の受診率向上への取組みなどを一般質問し、公約実現に向け一歩を踏み出しました。

皆様からの負託にひとつでも多くお答えすることができるように、今後も市民の皆様の声や願いに耳を傾け、解決に向けて共に学び歩んで行く所存です。

そして、声をあげれば自分の思いも市政に反映されるという実感の持てる日野市に向け、一人ひとりの幸せを奏でられる日野(まち)づくりを皆様と共に手がけて参ります。

現在、市民の皆様との相談窓口開設の準備を進めております。引き続き、伊藤あゆみへのご意見・ご要望をお寄せください。



ウクライナ人道支援募金活動▶



伊藤あゆみ 政策レポート

一般質問 令和4年3月14日(月)3番目に一般質問を行いました
傍聴席が満席になるほどの皆様にお越しいただきありがとうございました

- 1 妊娠前からの子育て支援
- 2 子宮頸がんワクチン接種について
- 3 健康を守り未来を歩めるまちに向かって

1 妊娠前からの子育て支援について

日野市においては妊娠期から切れ目ない子育て支援を行っていくことで安心して子育てが出来る環境づくりが行われている。しかし、国において令和4年度4月から不妊治療の保険適用がはじまる中で「妊娠前から」の子育て支援が日野市では他市にも遅れをとっている。今後の日野市の役割と考えを問う。

市担当 答弁

東京都の不妊検査等助成に関する申請者数は年々増加傾向である。

自治体独自の助成については、26市中13市が東京都の特定不妊治療費助成を受けている方を対象に上乗せ助成をおこなっているが、日野市ではおこなっていない。

特定不妊治療費助成の経過措置終了後の対応については、東京都や独自の助成を行っている自治体ともに、現在検討中とのことである。

国における不妊治療に関する支援内容が変わることを受け、市としてもホームページで情報発信を行ってきた。

また、不妊症に関する相談があった際には、子ども家庭支援センター母子保健係の保健師が対応し、必要に応じて東京都不妊・不育ホットライン等の専門相談機関や医療機関を紹介する支援体制を取っていく。

あゆみの目線

国が不妊治療の保険適用を実現した今、国に頼るだけでなく日野市が主体となった不妊検査の支援をおこない、早い段階から自分の体と向き合うことができる環境を整えるために2つの提案をする。市長の御所見を願う。

- ①ご希望される新婚ご夫婦には**ブライダルチェックと不妊検査のクーポン券**のプレゼント
- ②東京都の不妊検査の助成から外れる**40歳以上の方には、日野市が支援**する

市長所見

「妊娠前から」という言葉の響き、大変意味がある。

子供を産み育てられる条件の中、不妊治療の認識はあっても光を当てられてこなかった。

ようやくそこに光があたり保険適用となった。不妊検査の助成の対象年齢であるが、一定のエビデンスに基づきつくられた制度であるため、市として独自にできるか。

子育てしたいまち、子育てしやすいまちを目指す日野市として、市独自の助成も含めて先進市の事例や保険適用の実態も含めて検討を重ねていきたい。

今回の当初予算は難しかったが、来年度以降どうできるか努力をしていく。

【答弁を受けて】

私は自由民主党女性未来塾において不妊治療の健康保険適用を訴えてまいりました。

菅政権下で押し進められた事で、**今度日野市が主体となった不妊検査が必要である**と産婦人科医をはじめとする皆様のご意見をいただきながら、政策立案をしました。

不妊検査をご希望される新婚ご夫婦にプレゼントする理由には、大半の女性が子どもを望むものの本当に妊娠できるか不安でありながら「不妊症だと診断されるのが怖い」「パートナーが協力的でない」などの理由で、検査に行くまでに時間がかかってしまう傾向があるからです。不妊症の知識をもった上で2人の未来を歩んでいただきたい。皆さんに早期から自分の身体と向き合ってください。行政の後押しも時には必要です。

また、**不妊症の知見を広げることで不妊治療に取り組む皆様の支援につなげ、安心して命を守り育めるまちとなるよう、妊娠前からの子育て支援と予算の確保を市に要望してまいります。**

2 子宮頸がんワクチン接種について

令和4年度4月から予防接種法第8条の規定に基づき、全国で子宮頸がんワクチン（以下、HPVワクチン）の勧奨が再開されますが、日野市での積極的勧奨の時期と対策を問う。

市担当 答弁

令和4年4月より再開する。

定期接種対象者は、小学6年生相当から高校1年生相当までの女子約3,200人である。令和3年度は対象者に対し厚生労働省作成のリーフレットを閲覧できるQRコードを印刷した通知を発送した。

そこには、子宮頸がんの現状や治療、ワクチンの効果など説明しているほか、副反応の頻度、被害者救済制度についても明記している。

あゆみの目線

被接種者が接種後に体調の変化を感じた際に、**日野市では具体的にどのような連携を図り、どこの医療機関で診察ができるのか**

市担当 答弁

日野市医師会と連携しながら、かかりつけ医による身近な場所での診察ができる。必要時に**協力医療機関へ繋げていく**。東京都の協力医療機関は4医療機関、厚生労働行政推進調査研究班の所属医療機関は1医療機関である。

【答弁を受けて】

私も子宮頸がんの上皮腺癌(AIS)を患いました。子宮全摘出を前提とした診断を受け、五体満足に生まれ大きな怪我や病気もなく両親に育てられたにも関わらず自分の責任下で病気になってしまったこと、子宮がなくなれば血脈を守ることができないと、ご先祖様にも大変申し訳なく思いました。

また、この時期に主人と出会いこれからの未来を語り合う夢と希望の時期であり、子宮がなくなればお互いに別の道を歩もうかと深く悩み苦しみました。

私は「若い世代のお嬢さんたちに同じ悩みや苦

4ページへ続く



▲議場にて質問